

WHO-FIC ネットワーク年次会議の報告（ICF 関連）について

開催期間 : 2019（令和 1）年 10 月 5 日（土）～11 日（金）
会場 : バンフ芸術及び創造性センター（バンフ、カナダ）
参加者 : WHO、各 WHO 国際統計分類協力センター、各国政府厚生・統計関係部局、
NGO、オブザーバー等

1. 主な議論

(1) CSAC（分類・統計諮問委員会）

事前のウェブ投票により採否が決定した提案（採択 5、却下 2）や提案者が事前に修正又は修正に合意したことにより対面での議論を行わずに採択又は修正の上採択された案件（計 22）、当日議論の上、採択又は修正の上採択された提案（6）、後日ウェブ会議に諮られることとなった提案（10）、継続審議とされた提案（14）があった。内容としては、タイトルを動名詞に修正する提案や ICF-CY の項目を取り込む提案について ICF 2020 までの改正を目指して多くの提案が採択されているところである。

具体的には、例えば「d920 レクリエーションとレジャー」のうち「d9200 play（遊び）」を「playing」に修正することとされたほか、CY との統合の観点から、子どもにとっては、遊びは発達過程の一つであり、レジャーの下におくのは相応しくないのではないかといった意見が出されたが、これは新たな提案として扱うべき問題であるため、提案は現状のまま受け入れることとされた。更に、singing について、playing における singing と、communication における singing を区別し、後者を playing の除外項目とすること等の修正が行われた（提案 ID371 及び ID336）。

なお、正式な投票結果については、WHO から公表前であるため、上述の採択件数については修正される可能性がある。詳細な項目別の結果については、WHO の公表を受けて次回以降の専門委員会で報告する。

(2) FDRG

- 分類については、ICF 2020（ICF セカンドエディション）に向け、ICF の改正を通じて ICF-CY（児童版）の完全統合が続けられている。人口構造の変化に伴い、生活機能データへのニーズが高まっており、ICF の発展に当たっては、テキストによる説明から、ICD と同様に索引用語（index term）を開発、検証するプロセスが必要との認識が示された。

- 評価ツールについては、ICF 全体として、依然として、コンセプトから国レベルでの社会実装という次のステージに上がる必要があり、臨床においてたくさんの評価ツールが存在するなか、各国の事情に応じ、そうしたツールをどのように採用するかが課題となっている。
- WHODAS は、ICD-11 の V 章の軸の一つに採用されている評価ツールの一つであるが、リハビリテーションの領域で実施（中国、韓国）、自国言語の質問紙やマニュアルの作成（オランダ）、e チュートリアルの開発（ドイツ）など各国の取り組みが紹介された。また、児童向けの WHODAS (KIDDAS) の開発に関する報告があり、3 年計画で実施中であり、対象は、0～14 歳、ICF に完全準拠した内容となることが報告された。また、WHODAS、KIDDAS 共に、環境因子の影響が考慮されていないことが今後検討する必要がある点として挙げられた。
- ICF の e-learning ツールについては、WHO と共同で脊髄損傷者に特化した調査が進められており、ドイツ、韓国などが参加している。

2. 今後の会議日程

- 次回 WHO-FIC 年次会議タイ・バンコク（2020 年 10 月 19 日（月）～24 日（土））